

Keio University



問題意識

慶應義塾大学法学部
大屋雄裕

『測りすぎ』



- 評価やその基礎となる情報を収集するためには一定のコストが必要となる
 - 「評価疲れ」の発生
- それでもPDCA分析による改善などメリットにつながるなら受容すべきだが……

「行政事業レビュー」という形式

- 単位は「事業」
 - 予算処理の単位
 - 政策＝行政課題に対応するための方針
 - 施策＝政策実現のための方策・対策
- 事業単独では社会への影響まで届かない場合もある

典型としてのアメダス観測事業

- 本質的にアクティビティ→アウトプットをカバーするものでは？
 - 観測結果…別の事業の対象、民間事業者による活用
 - 行政内部であれば意識・確認しておくべき
 - 民間事業者の場合は？

測らせすぎ？

- 調査研究事業なども同様の問題
 - そこで得た知見をどう活かすか…次の事業へのバトンタッチ
 - 「うまくつながっていること」の把握方法
 - 無理な指標設定を強いていないかという疑いを持つべきでは